

市長への手紙 ご意見とその回答(令和4年6月)

質問	<u>まいん「健幸」サポートセンターに感謝について</u> 2021年1月に筑波大学附属病院でステージ3の口腔癌が見つかり、進行癌なので手術を受けなければ余命1～2年と宣言されました。 もう少し生きていたい、との思いが手術の恐怖心を追いやり、口腔外科と形成外科による13.5時間に及ぶ合同手術を受けました。 無事に終わり42日間入院して3月に退院しました。 自宅でのリハビリは無理と判断した妻の勧めで、まいん健幸サポートセンターを尋ね4月から一番簡単なプログラムに妻と同伴で通い始めました。インストラクターの先生方のレッスンは、教え上手で楽しく、笑いの絶えないもので、以来毎月3～4回、休む事なく通い続けています。 入院で10kg減った体重も6kg増えて体力も気力も戻りつつあります。 お陰様で毎月の定期検診でも癌の再発、転移は見つかっておらず、ドクターからも頑張りにお褒めの言葉をかけて貰っています。 今日、毎日元気で過ごすことが出来るのは病院の先生方、看護師さん、妻そして「健幸」サポートセンターのインストラクターの先生達と、館長、職員の方々のおかげです。 プログラムを無料で教えて下さるのも、年金生活者にはとても助かります。今後もずーっと続けて頂きたいと願っています。
回答	まいん「健幸」サポートセンターにつきましては、利用されている市民の方が気軽に通うことができ、いつまでも自分らしく元気に地域で暮らすことができるよう、介護予防及び健康寿命の延伸を目的に日々プログラムの提供を行っています。 そのような中で、本施設の利用が有益なものとなっているとのこと、大変嬉しく思います。 これからも、多くの市民の方に足を運んでいただき、笑顔や元気を届けられる施設としていけるよう、しっかりと運営をしてまいります。 【担当:健康長寿課】

質問	<u>私のまいん「健幸」サポートについて</u> お世話になっている「健幸」サポートは本当であれば65歳以上の方々が対象でしたが、私の場合は大病のため、病院を退院後も数か月寝たきりに近い状態で、少しずつ歩けるようになって、体力が追い付かず、すぐ寝込むような状態でした。 そのような時に「まいん」で体操している事を知って、対象年齢には満たない年齢でしたが、通えるようになり、担当の先生はじめプロのインストラク
----	--

	ターさんの楽しい指導のおかげもあり、少しずつ身体が回復し、体力もついてきました。 以前は動けない為、気分も落ち込みがちでしたが、皆さんとの交流で気持ちから元気になりました。 今では欠かせない大切な場所です。 周囲からももっとたくさんのプログラムに参加したいと聞かれます。 予算の関係もあるでしょうが、ご尽力の程、よろしくお願いします。
回答	まいん「健幸」サポートセンターが、大切な通いの場となっていること、大変嬉しく思います。 本施設は、利用されている市民の方が、気軽に通え、利用者同士、インストラクターや職員との交流を楽しみながら、体力の維持、健康づくりのためのプログラムを受けることができる施設です。 利用中はもちろんのこと、帰る際には笑顔で、ご自宅に帰れることを、日々の目標とし、職員一同、業務に携わっております。 お手紙にもありましたとおり、本施設が皆さまにとって欠かせない大切な場所となるよう、これからは、笑顔や笑い声が絶えず、何より、皆さまの健康づくりに寄与できる施設を心がけ、プログラムの充実も含めて取り組んでまいりたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いします。 【担当:健康長寿課】

質問	<u>一般会計のムダについて</u> 湯ったり館、たつのご産直市場、駅前こどもステーション、コミュニティバス、観光物流センター、文化会館管理、社会福祉協議会、運動公園の8件についてです。 私たちの大切な税金です。皆が納得いくように使ってほしいです。大変な思いをして働き納めた税金です。その思いをわかっていただきたいです。 今までと同じことでなく、どうしたらもっと良い使い方ができるか、考えればきっと何か方法があると思います。
回答	まず、農業公園豊作村湯ったり館につきましては、龍ヶ崎地方塵芥処理組合の新清掃工場(ごみ焼却処理施設・リサイクル施設・最終処分場)建設に伴う地域還元施設のひとつとして整備したもので、平成12年の開設以来、地域住民はもとより市内外から多くの方にご利用いただき、市民の交流拠点としての役割を担っている施設です。 一方で、開設から20年以上が経過していることから施設の老朽化は否めない状況にあり、また近年では、民間事業者による類似の温浴施設が市

内にオープンした影響や新型コロナウイルス感染症まん延の影響を大きく受け、利用者数は減少傾向にあります。

龍ヶ崎市農産物等直売所「たつのこ産直市場」につきましては、本市の基幹産業である農業の活性化への取り組みの一環として、市内を中心に生産された安全安心な農産物を新鮮な状態で提供する地産地消の促進を目的としています。

平成30年の開所以来、出荷者の拡大に努め、現在では、季節の旬の農産物を安定的に販売しておりますことから、市内外から多くの方にご利用いただき、年々売り上げも増加しております。

農業公園豊作村湯ったり館及び龍ヶ崎市農産物等直売所「たつのこ産直市場」の運営にあたりましては、ご指摘のとおりムダを無くし、費用対効果を意識して、目的達成に向けて有意義な事業に取り組むことが肝要であると考えますので、今後も市民の交流及び地産地消の拠点としての役割を十分に果たしていくためにも、指定管理者及び業務委託により施設の管理運営業務を担っています公益財団法人龍ヶ崎市まちづくり・文化財団と連携・協力を図りながら、効率的かつ効果的な事業運営に向けて継続的に取組事業の成果検証、改善等に努めます。

次に、龍ヶ崎市駅前こどもステーションにつきましては、核家族化や女性の社会参加が進む中で、共働き世帯や近くに頼れる親族・知人がいない世帯等の子育てを支援するために、朝夕は幼児教育・保育施設への送迎事業を、日中は親子で集える交流の場として子育て支援センター事業を行っております。

龍ヶ崎市駅前こどもステーションは、利用者の皆さまから大変高評価をいただいているところですが、今後も子育て環境をさらに充実させるために、子育て世帯のニーズを的確に把握し、駅前こどもステーションをはじめ、現在行っている様々な施策の検証を行い、子育て世帯の負担や不安が軽減され、本市が子育てしやすい街となるよう子ども・子育て支援施策を実施します。

次に、コミュニティバス等の公共交通は、運転免許を返納された方や運転免許を取得することができない子どもたちなど、自動車の運転が困難な方にとって、日々の生活に欠かせない存在です。

今後の高齢化社会の進展を見据えますと、地域の暮らしを支える移動手段の維持・確保はますます重要な課題となっております。

そのような中で、現在のコミュニティバスは、民間の公共交通が運行していない地域を広くカバーするように、運行していますが、経費の大部分を公的負担しているのが現状です。

このような状況を踏まえ、引き続き利用促進等、運行の適正化に向けた取り組みを継続するほか、AIオンデマンド交通など、より当市にふさわしい公共交通ネットワークの構築に向けた検討を進めます。

次に、龍ヶ崎市観光物産センターは、市の玄関口である龍ヶ崎市駅に平成21年にオープンし、龍ヶ崎市の観光情報及び市政等の案内業務を行っております。

今後も観光情報等をご案内する施設として、来所者の皆さまにとって利便性の高い施設としていきます。

次に、大昭ホール龍ヶ崎(文化会館)につきましては、市民の文化芸術活動の支援・育成及び芸術性の高い舞台作品を鑑賞する機会の提供など、市民文化の振興に努めているとともに、市民・利用者の皆さまからの声を取り入れた管理運営を行っております。

今後も、指定管理者として管理運営を担う公益財団法人龍ヶ崎市まちづくり・文化財団と連携・協力を図りながら、市民の文化芸術活動の拠点としての役割を果たす事業の実施と施設の適切な管理に努めます。

次に、社会福祉法人龍ヶ崎市社会福祉協議会は、地域福祉の推進を図ることを目的にさまざまな福祉事業を実施しており、当市ではこれらの活動を支援するため補助金等を交付しております。当該団体に対してはあらためて、適切な予算執行の徹底を指導します。

最後に、総合運動公園にあるニューライフアリーナ龍ヶ崎(たつのこアリーナ)・流通経済大学龍ヶ崎フィールド(たつのこフィールド)・TOKIWAスタジアム龍ヶ崎(たつのこスタジアム)等、市公共スポーツ施設は、平成26年度より指定管理者制度を導入しております。

民間のノウハウを生かした管理運営を行うことにより、多様化する市民の皆さまからの要望に対応し、幼児から高齢者までそれぞれの年代に応じたスポーツ教室を展開しております。

特に高齢化社会が進み、医療、介護といった分野の社会保障が増大していく中で、市民の皆さまが積極的にスポーツに親しみ、心身の健康維持を図ることは大変重要なものと認識しております。

また、指定管理者の選定手続きを公募としたことにより民間事業者間の競争原理に基づき経費削減につながっていると考えております。

今後もスポーツ施設の管理運営等につきまして経費削減に考慮しながら、市民の皆さまが気軽にスポーツに親しめる環境をつくり、楽しく健康的な生活を送っていただけるようスポーツ事業を推進します。

今回、いただきましたご意見を真摯に受け止めさせていただき、「大変な思いをして働き納めていただいた」税金につきまして、皆さまから納得して

	いただける市政運営に努めてまいります。 【担当：農業政策課・こども家庭課・都市計画課・商工観光課・文化・生涯学習課・社会福祉課・スポーツ都市推進課】
--	--

質問	<u>道の駅の再検証について</u> ご多忙のところ萩原市長のマニフェストの「道の駅の再検証」について伺います。 再検証の進捗はどんな状況でしょうか。 道の駅を造るのか止めるのか、萩原市長の決断を市民に聞かせていただけないでしょうか。 頓挫してから、一度も市長の口から道の駅についての状況説明がないまま現在に至ってます。 ホームページも2020年11月5日から更新されておらず、いつまで経っても悶々としたままです。(せめて、マニフェストの「道の駅の再検証中(2022年〇年〇日)」ぐらいは) 私としては、道の駅プロジェクトを賛成してます。 上手くやってのことですが、経済効果、龍ヶ崎市の宣伝、就労などなど沢山メリットあると考えます。 近くの、道の駅しょうなん(柏市)は同じような条件だと思いますし、湖畔も整備しており、大いに参考になると思います。 市長は、龍ヶ崎市を好きですか。 他と比べる必要ないのかもしれませんが、龍ヶ崎市をもっともっと宣伝しませんか。 竜ヶ崎飛行場の活用、市民マラソン、自転車、キャンプ場など、まずは「道の駅」やるやらないのご決断と、発表を待っています。
回答	道の駅整備事業につきましては、護岸改修工事の中止(2019年1月)以降、整備事業が中断している状態にあります。 私がマニフェストに掲げた道の駅の再検証は、当該事業の状況や事業費などの情報がきちんと市民の皆さまに伝わっていないと考え、適正な議論を進めていくため、あらためて道の駅整備に必要な概算事業費、利用者数や収支状況、貴重な地域資源である牛久沼の活用を考える中での道の駅の可能性等について整理するものです。現在、担当課に指示しその作業を進めております。 検証した内容は、本年10月を目途に取りまとめた上で公表し、アンケートなどを通して市民の皆さまのご意見を拝聴してまいりたいと考えております。

そして、それらを通して、私が総合的に判断し、本年度中には、道の駅整備の方向性をお示ししていきたいと考えております。何とぞ、ご理解いただきますようお願いいたします。

龍ヶ崎市には、都心からは50km圏内、JR常磐線で50分で到着できる交通アクセスの良さにあって、牛久沼や森林公園など豊かな自然環境をはじめ、まちの魅力を創造していけるポテンシャルを秘めた資源が多くあります。

市民の皆さまと一緒に、「楽しいまち」と感じていただけるような取組を今後も展開し、まちの魅力の発信に努めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

【担当:まちの魅力創造課】